

「ハートフルブック」サービスの意義と展望

野口 武悟*、松尾 孝行**、井上 竜介**、浴野 英生***、小林 修平****

*専修大学文学部

**欧文印刷（株）

***（株）デジタル・オンデマンド出版センター

****（株）光和コンピューター

E-mail : takenori@isc.senshu-u.ac.jp

1. 「ハートフルブック」サービスの背景～LLブック出版の現状～

LLブックとは、知的障害者を主な読者対象として、彼らの読書の特性をふまえて作られる図書の総称である。グローバル化や高齢化の進展とともに、母語を異にする人や認知症のある高齢者への提供ニーズも高まっている。必ずしも明確な定義があるわけではないが、やさしく書かれた文章、文章の内容を示すピクトグラム（絵記号）、写真やイラストなどの組み合わせで構成されていることが多い（図1）。

LLブックのLLとは、スウェーデン語の Lättläst の略で、“やさしくてわかりやすい” という意味である。英語圏では、easy-to-read や easy-to-understand と呼ばれている。青年期以降の人々のニーズにあった情報をやさしく、わかりやすく提供しようとするもので、乳幼児や児童といった子どもを読者対象とした絵本などとは異なる。

ノーマライゼーション社会を実現するためには知的障害者も日常生活や社会生活、余暇などで必要となる情報を自ら得られるようにしなければならないとの考えのもと、1968年にスウェーデンでLLブックの出版が始まった。スウェーデンでは、毎年30タイトル程度のLLブックが出版されている。スウェーデン以外の欧米諸国でも一定数のLLブック（easy-to-read、easy-to-understand）の出版がなされており、市販されるだけでなく、公共図書館にはLLブックを集めた棚やコーナーを設けるところも少なくない。

ノーマライゼーションの考え方は、「障害者の権利に関する条約」（日本政府は2014年1月に批准）のベースにもなっている。この条約を受けて、2016年4月には行政機関等に障害者への「合理的配慮」の提供を義務づけた「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が施行されており、日本でもLLブックに対するニーズは高まってきている。

しかしながら、日本国内におけるLLブックの出版・流通は、まだ少ない。LLブックを副題やシリーズ名に明示して国内で出版されるようになるのは、2000年代に入ってからで

ある。しかし、報告者らの調査では、2018年9月現在でも、LLブックを明示して市販されている作品は16タイトル、非売の作品が9タイトルに過ぎない（表1）。

もちろん、LLブックという明示はないものの、その内容面でLLブックに相当するような作品も存在する（例えば、全日本手をつなぐ育成会が発行していた「自立生活ハンドブック」シリーズなど）。しかし、それも、あわせて70タイトルに満たない数である。

こうした現状にあって、報告者の研究室では2012年度からゼミナール活動としてLLブックを制作し、希望する公共図書館や学校図書館、福祉施設等に寄贈する取り組みを開始した。知的障害者や特別支援学校の教員にも意見をうかがいながら、ニーズのあるテーマを選び、学生が主体的に取材、執筆、編集を行い、LLブックを完成させていく。この過程では、テーマに応じて、鉄道会社、化粧品メーカー、動物園など多くの企業・団体に協力いただいた。これまでに『タカとハルの江の島のたび～小田急ロマンスカーにのって～』『はじめてのメイク』『パンケーキをつくろう！』『どうぶつえんに行こう！』の4作品を発行している。



(野口研究室で制作した『タカとハルの江の島のたび』(2013年)の1ページ)

図1 LLブックの例

表1 日本国内でLLブックを明示して発行された作品一覧

(2018年9月現在)

	書名	著者等	出版者	出版年	
市販	山頂にむかって	ステイーナ・アンディション 文/エバ・ベーンリード 写真/藤澤和子 監修/寺尾三郎 訳	愛育社	2002年	
	リーサのたのしい一日	マーツ・フォーシュ 文/エリ・アレンビネン 写真/藤澤和子 監修/寺尾三郎 訳	愛育社	2002年	
	ひろみとまゆこの2人だけのがいしゆつーバスにのってまちまでー	内田由美 作/西矢育子 絵/大阪府立金剛コロニー 監修	清風堂書店出版部	2006年	
	赤いハイヒール～ある愛のものがたり～	ロッタ・ソールセン 作/ビョーン・アーベン 撮影/中村冬美 訳	日本障害者リハビリテーション協会	2006年	
	ら。クック(障害のある人向けのわかりやすい料理本)	神みよ子/杉田賢治 写真	Sプランニング	2007年	
	わたしのかぞく—なにが起こるかな?—	LLブック(やさしく読める本)制作グループ 編	樹村房	2015年	
	ぼくの家はかえで荘	小林美津江 文/近藤優衣 絵/酒井博文 写真	埼玉福祉会	2016年	
	アサガオをそだてよう	あかぎかんこ 作/ふじいひでみ 写真	埼玉福祉会	2016年	
	セミがうまれたよ	あかぎかんこ 作/きたじまひでお 写真	埼玉福祉会	2016年	
	さんびきのこぶた	あかぎかんこ 作/なかがわだいすけ 絵	埼玉福祉会	2016年	
	地震がきたらどうすればいいの?	あかぎかんこ作/mitty 絵	埼玉福祉会	2016年	
	ぶんぶくちやがま	あかぎかんこ 作/なかがわだいすけ 絵	埼玉福祉会	2017年	
	はつ恋	藤澤和子・川崎千加・多賀谷津也子 企画・編集・制作	樹村房	2017年	
	美しくなりたい あなたへ	バーバラ・エナンデル著/藤澤和子文・監修/寺尾三郎訳	埼玉福祉会	2017年	
	クッキーづくりの仕事—洋美さんの1日—(仕事に行きます①)	季刊『コトノ』編集部文/藤井克徳・野口武悟監修	埼玉福祉会	2018年	
	動物園で、そうじの仕事(仕事に行きます②)	季刊『コトノ』編集部文/大垣勲男・野口武悟監修	埼玉福祉会	2018年	
	非売	赤いハイヒール～ある愛のものがたり～LLマンガ版	ロッタ・ソールセン 作/都留泰作 マンガ/LLマンガ研究	LLマンガ研究会	2011年
		はつ恋—LL写真ブック—	藤澤和子 企画・監修	藤澤和子	2012年
タカとハルの江の島のたび～小田急ロマンスカーにのって～		市川貴祐・小貫智晴 文/溝井智大 写真/野口武悟 監	専修大学アクセシブルメディア研究会	2013年	
わたしのかぞく:LL写真ブック		藤澤和子・多賀谷津也子・川崎千加 編	LLブック制作グループ	2014年	
はじめてのメイク		加登美有・堀内青空 文/金城克志 写真/野口武悟 監	専修大学アクセシブルメディア研究会	2014年	
パンケーキをつくろう!		佐々木梨乃・三輪姫乃 文・絵/山崎高志 写真/野口武悟 監修	専修大学アクセシブルメディア研究会	2015年	
どうぶつえんに行こう!		平山千晴 文/富山知邑 絵/謝文芝 写真/野口武悟 監修	専修大学文学部野口研究室×DOD出版センター合同プロジェクト	2016年	
やさしいぼうさい		岡田真帆・諸橋穂乃佳・安井春香 文・写真/野口武悟 監	日本障害者リハビリテーション協会	2016年	
ひとりでせんたく!～知ってる? せんたく絵ひょうじ～		小池夏妃・成田早織・盛妻奈作/小池夏妃 絵/成田早織 写真/野口武悟 監修	日本障害者リハビリテーション協会	2016年	

*非売のタイトルは、公共図書館等にの無償頒布

2. 「ハートフルブック」サービス開始までの経緯

前述のような研究室での取り組みを進めるなかで、2015年に産学プロジェクトに参画する機会を得た。もともとは、学内の別の研究室と(株)光和コンピューター、欧文印刷(株)によるオンデマンド出版に関する研究プロジェクトであったが、LLブックの制作はまさにオンデマンド出版が適しているのではないかとこのことで、声をかけていただいた。

当初は、フォトブックの制作システムを応用して LL ブックを簡便に制作できるシステムの開発をめざして検討を進めた。しかし、すでに紹介したような LL ブックの出版・流通の現状や、LL ブックに関する情報そのものが不足している状況をふまえて、制作だけでなく、広く LL ブックに関する情報提供を行える、LL ブックに関するポータルサイトの制作をめざす方向に変更した。2016 年に欧文印刷（株）が「LL ブック出版サービスの開発」で（公財）東京都中小企業振興公社の新製品・新技術開発助成金を受けたことも、大きな後押しとなった。

検討の結果、ポータルサイトは、LL ブックを「知る」「読む」「作る」の 3 つのパートから構成することとし、トップページには、LL ブックに関する連載記事やコラムも掲載することとした。また、サイト名は、「ハートフルブック」と名づけた。

こうして、2017 年 8 月 18 日より「ハートフルブック」を一般公開し、サービスを開始した。運営は、産学合同で「ハートフルブック運営委員会」を組織して当たっている。

3. 「ハートフルブック」サービスの概要

「ハートフルブック」サービスの概要は、以下の通りである (<https://heartfulbook.jp/>)。当日は、デモしながら紹介していきたい。

トップページ（図 2）には、日本における LL ブック研究の第一人者である藤澤和子氏（大和大学）、LL ブックの出版に携わる大塚栄一氏（樹村房）による連載記事を掲載している。



図 2 「ハートフルブック」のトップページ

「知る」のページ（図 3）では、報告者らが LL ブックや、やさしくてわかりやすい文章について解説をしている。ここを読むことで、LL ブックについての概要を知ることができる。

Heartfulbook
ハートフルブック

カテゴリから探す キーワードで探す 検索 > 詳細検索

LLブックを「知る」

- > LLブックとは
- > LLブックの意義と展望
- > やさしくてわかりやすい文章とは
- > LLブックの構成

LLブックの意義と展望

LLブックとは、知的障がいのある人や母語を異にする人など読むことが苦手な人のために、読みやすいように工夫して作られた本のことです。やさしめにわかりやすく書かれた文章、絵記号（ピクトグラム）、イラスト、写真などを使って作られています。50年ほど前にスウェーデンで生まれたLLブックの考え方は、今では世界中に広がっています。日本でも、徐々に作品が増えはじめています。

LLブックの意義と姿

LLブックのLLとは、スウェーデン語のLäsåst（やさしくてわかりやすい）の略です。つまり、LLブックは、“やさしくてわかりやすい本”という意味になります。ただし、“やさしくてわかりやすい本”といっても、乳幼児や小学生くらいまでの子どもを対象とした本ではありません。知的障がいや母語を異にするなどのために読むことに困難を伴いがちな中学生以上の青年（ヤングアダルト層）や成人を対象に、生活年齢にあった内容の本を提供しようというのがLLブックのコンセプトになります。

LLブックには、必ずしも決まったスタイルがあるわけではありません。ただし、(1) やさしめにわかりやすく書かれた文章、(2) 文章の意味を示す絵記号（ピクトグラム）、(3) イラストや写真からなるLLブックが比較的多く、スタンダードなスタイルといえるでしょう。ほかにも、写真だけで作られたLLブック、スマートフォンなどをかざすと音声読み上げしてくれる音声コードを付けたLLブックなど、そのスタイルは多様です。

今から50年ほど前に、北欧のスウェーデンで始まったLLブックは、現在では世界中のさまざまな国々に広がっています。英語圏では、“easy-to-read”や“easy-to-understand”とも呼ばれています。障害のある人もない人と平等に暮らしていける社会を実現しようというノーマライゼーションの考え方を推進するためには、障害のある人の「知る権利」が障害のない人と平等に保障されなければなりません。知的障がいのある人の場合、“やさしくてわかりやすい”形での情報提供がなされなければ、「知る権利」を実質的に保障したことにはなりません。そこで始まったのがLLブックの出版だったのです。スウェーデンでは、いまや、本だけでなく、LL新聞も発行されています。

図 3 「ハートフルブック」の「知る」のページ

「読む」のページ（図 4）では、日本国内で現在出版されている LL ブック（表 1 参照）および内容面で LL ブックに相当する作品について、非売のものも含めて網羅的に紹介している（著作権者や版元の許諾の得られたものから順次掲載）。市販の作品については、販売サイトへのリンクを付けて、リンク先から直接購入できるようにしている。また、非売の作品のうち著作権者からの許諾を得られた作品については、全ページを本サイト上で読むことができるようにしている。



図4 「ハートフルブック」の「読む」のページ

「作る」のページ(図5)では、LLブックを実際に作ることができるサービスを提供している。「ハートフルブック」サービスのかなめとなる部分である。特別支援学校の教材、公共図書館の利用案内など、ニーズがつかみやすい身近な知的障害者を想定したLLブックを少数から制作することができる。「作る」で制作したLLブックは、制作者が希望すれば、「ハートフルブック運営委員会」の確認を経て、「読む」のページで公開することも可能である。なお、印刷についてのみ、有料となる。

4. 「ハートフルブック」サービスの展望

「ハートフルブック」サービスは、図書館関係者、知的障害者の家族、知的障害者の教育・福祉・医療に携わる関係者に活用していただくとありがたいと考えている。2018年1月29日には、図書館関係者を対象とした「図書館の「やさしい利用案内」作成セミナー」を東京都内で開催し、予想を上回る受講者数となった。しかし、受講の動機としては、「作る」手前のところ、つまり、“LLブックって何かを知りたい”が多かった。「ハートフルブック」サービスのかなめである「作る」を利用してもらうためには、LLブックや“やさしくてわかりやすい”情報提供そのものの理解を深めることが欠かせないといえ

る。この点を意識して、今後もセミナーや研修会の開催を検討・企画していきたい。あわせて、「ハートフルブック」の認知度もまだ高くないので、多くの人にこのサービスを知ってもらうべく、PRにも取り組んでいきたい。

現在、「読書バリアフリー法」（仮）の制定を求める機運が高まっている。LLブックなどの“やさしくてわかりやすい”情報提供を必要としている人々の読書バリアフリーに少しでも貢献できるよう、今後も「ハートフルブック」サービスの一層の充実を図っていきたい。ぜひ、こんなコンテンツや機能がほしいという要望や意見を寄せていただけると幸いである。



図5 「ハートフルブック」の「作る」のページ

【文献】

野口武悟「産学連携でのLLブックに関するポータルサイトの制作と公開」『第103回全国図書館大会東京大会記録』、2018年、p.126-128

野口武悟・藤澤和子「日本におけるLLブック出版の現状と展望」『日本出版学会2016年度秋季研究発表会予稿集』、2016年、p.8-13

野口武悟・小貫智晴「LLブック」の普及をめざして：専修大学文学部野口ゼミの取り組み」『こどもの図書館』63（10）、2016年、p.6-9

野口武悟・植村八潮編著『図書館のアクセシビリティ：「合理的配慮」の提供へ向けて』樹村房、2015年

藤澤和子・服部敦司編著『LLブックを届ける：やさしく読める本を知的障害・自閉症のある読者へ』読書工房、2009年